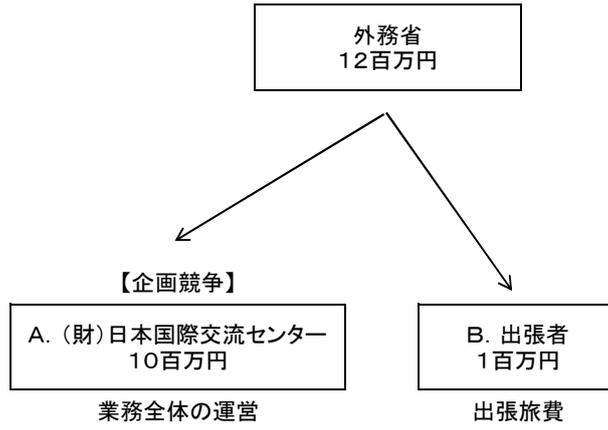


平成23年行政事業レビューシート (外務省)

事業名	日独フォーラム関係費		担当部局庁	欧州局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成5年度開始		担当課室	中・東欧課		課長 河津 邦彦		
会計区分	一般会計		施策名	I-4 欧州地域外交				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	外務省設置法第4条第2項		関係する計画、通知等	-				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	日独双方の政、官、民、学界の有識者が、自由な立場で、日独両国が直面する共通の課題等につき議論を行い、日独関係のあるべき姿について大所高所からの中長期的ビジョンを提示することを目的とする。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	日独フォーラムは、1992年4月の日独首脳会談において、日独両国首脳の諮問機関として設置することに合意した「賢人会議」であり、1993年以降、ドイツと日本において交互に開催してきている。現在の日本側座長は茂木友三郎キッコーマン株式会社代表取締役社長、独側座長はジョイブレ・元メルツ社長で、座長以外のメンバーは毎回テーマに応じて入れ替えている。会合後には、両国首脳に政策提言を提出している。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
		補正予算	-	-	-	-		
		繰越し等	-	-	-	-		
		計	13	12	13	12	14	
	執行額	12	10	12				
	執行率(%)	94%	84%	87%				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	20年度	21年度	22年度	目標値(年度)
	日独双方の政、官、民、学界の有識者が、日独両国が直面する共通の課題等につき議論を実施し、日独関係のあるべき姿について大所高所からの中長期的ビジョンを提示する。なお、第18回会合にて、両国政府は核不拡散レジームの推進に関し共同でリーダーシップを発揮する可能性を積極的に模索すべきである点につき合意が得られたことを受け、核軍縮不拡散に関する岡田元外相とヴェスターヴェレ外相による共同投稿が2度実施されるに至った。		成果実績	達成されたビジョン数	6	6 (両国外相の共同投稿を含む)	6	-
			達成度	%	-	-	-	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	日独フォーラムを開催(年1回)、両国首脳に対する政策提言ステートメントを发出(開催場所は両国で輪番)。		活動実績(当初見込み)	日独フォーラム開催回数	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)
単位当たりコスト	平成21年度(本邦開催):10百万円/回 平成22年度(ベルリン開催):12百万円/回		算出根拠	執行額(10百万円)/日独フォーラム開催回数(1回) (平成21年度、本邦開催) 執行額(12百万円)/日独フォーラム開催回数(1回) (平成22年度、ベルリン開催)				
平成23・24年度予算内訳 (単位:千円)	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	外部委託 旅費(外国旅費)	11,613 0	12,907 1,392	平成24年度はドイツでの開催となるため				
	計	11,613	14,299					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	本フォーラムは、日本と独の交互で開催。国内開催の場合は、会場確保、通訳手配、出席者の移動の手配等、独開催の場合は日本側参加者の出張手配等を、企画競争により選定された業者が行っている。また、委託業者は、ロジ事項のみならず、独側事務局と議題調整も実施。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・用途	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	平成22年度の会合はベルリンで実施され、日独両国の政経事情の他、経済成長と財政問題のバランス、台頭する中国への対応、将来のリーダーの育成を中心に議論。フォーラム後、今次会合の結果を纏めた座長ステートメントを発出。
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	本フォーラムは、日独双方の政、官、民、学界の有識者が、自由な立場で、日独両国が直面する共通の課題等につき議論を行うことにより、両国政府にとって重要な指針となる政策提言を行われる場であり、同成果物は、日独両国にとって非常に示唆の富むものとなっている。また、委託業者の選定にあたっては、企画競争を導入し、選定に競争性を持たせている。		
予算監視・効率化チームの所見			
現状通り	—		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
—			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			

※平成22年度実績を記入



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の
 金額が支出されている者につい
 て記載する。費
 目と使途の双方
 で実情が分かる
 ように記載)

A.			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
航空賃	国際航空券、海外旅行傷害保険	6			
滞在費	宿泊、交通費	0.6			
事務局経費	人件費、資料作成費等	3			
資料翻訳費	資料翻訳	0.1			
運営管理費		0.4			
計		10	計		0
B.			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
旅費	航空賃、日当、宿泊料	1			
計		1	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(財)日本国際交流センター	業務全体の運営	10	企画競争	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

B

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	個人	日本側理事	1		
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					